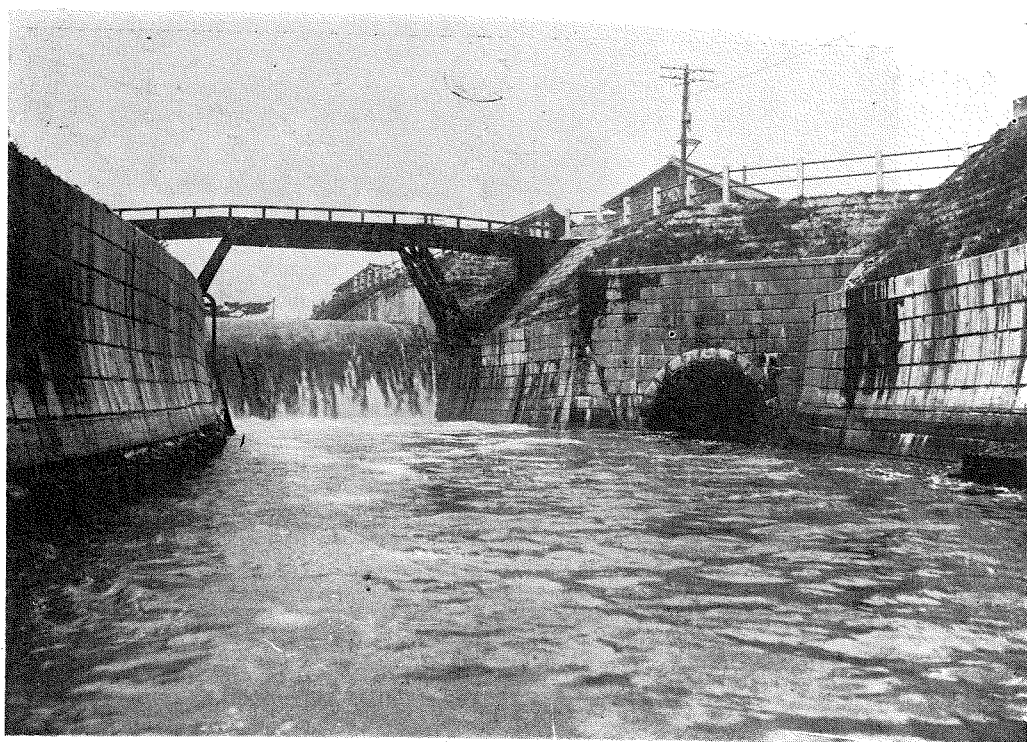




(1) 黒川浚渫並護岸築造工事 黒川上流船溜より堰堤を望む。

黒川浚渫並護岸築造工事概要

名古屋市水道部長 池 田 篤 三 郎

1. 施設の大要

名古屋市の北部所謂城東城北の地は南に舊市臺地と北に蜿蜒たる矢田川堤防との間に介在する低地にして土地一般に濕潤を極め其の間、黒川、大幸川、等の貫流する在りと雖も何れも河床淺く断面狹小にして排水路として充分の用を爲さず、豪雨に際しては濁水四方に氾濫し浸水家屋續出して被害甚大なるものあり、名古屋市は曩に巨費を投じて堀川以西の地區に西部下水道幹線築造を起工すると同時に更に今又之れと不可離の關係にある本地

域一帯の下水道施設を企圖し以て市民の保健衛生上の不安と脅威の禍根を除去せむことを期せり。

黒川改修工事は之に流入する大幸川及三郷下水幹線築造工事等と共に在來の黒川を浚渫して河床を底下し本市北域排水の根幹たらしむると共に河川の幅員迂曲を整理して之れに完全なる護岸を築造し堀川に通水せしめて船舶の運航を自由ならしめ河川利用の價値を増大せしむることとせり。

即ち本工事は黒川筋朝日橋起點より上流大幸川合流點に至る延長 2,874 米の浚渫及護岸

築造工事にして之に
附帶する橋梁の架換
及道路の修築等を併
せて施工し昭和六年
四月着手、同八年三
月を以て竣工せり。

本工事は失業救済
事業にして之に従事
したる労働者の延人
員は 333,700 人に上
り、工事の最盛時期
に於ては毎日約 1,60
0 人の労働者を就役
せしめたり。

2. 工事大要

一、河川幅員

自 朝 日 橋
至 黒 川 橋
13米

自 黒 川 橋
至 大幸川合流點
10米

二、水 深

最 大 3米52

最 小 1米35

在來河床より 3 米
乃至 4 米を掘下げた
るものにして之れが
浚渫によりて生じた
る土量は 133,400 立
方米。

三、護 岸 延長 5,748米

1. 混 凝 土 護 岸 2,512米

2. 鋼 矢 板 護 岸 3,236米

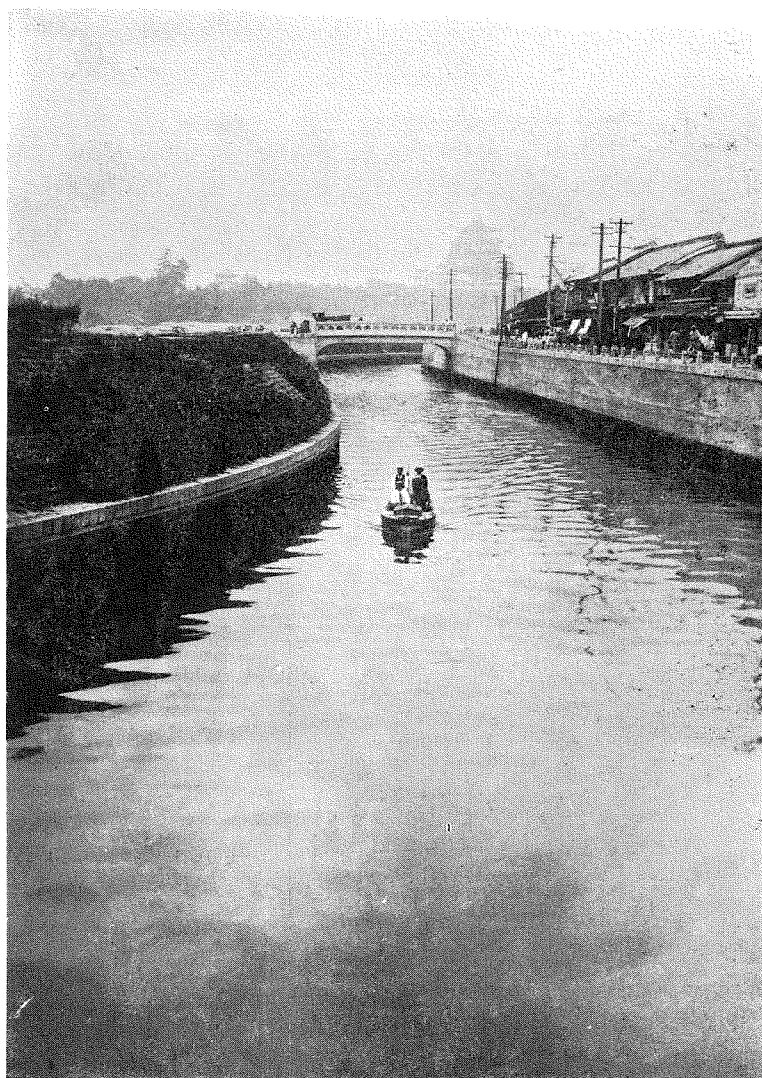
四、橋 梁 10橋

朝 日 橋 大 幸 橋 鷹 匠 橋

筋 違 橋 堀 端 橋 中 土 戸 橋

金 城 橋 田 幡 橋 黒 川 橋

猿 投 橋



(2) 改修後の黒川より恩賜名古屋城を望む、中央に見ゆるは中土戸橋。

3. 工 事 費

1,010,834圓000 總 工 費

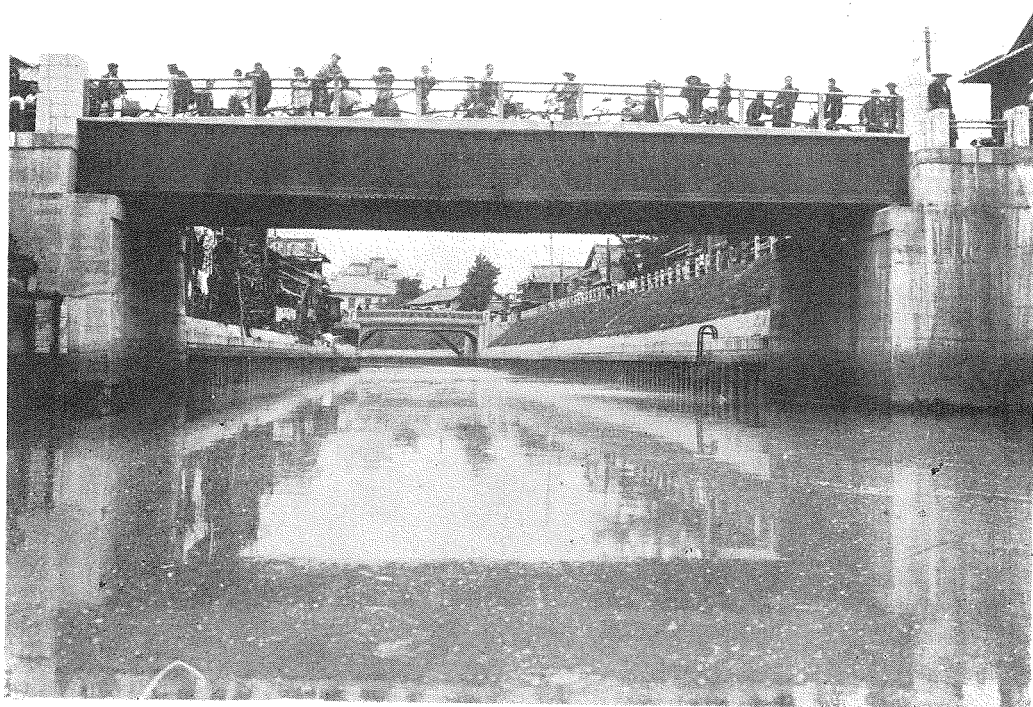
内 譯

31,587圓000 事 務 費

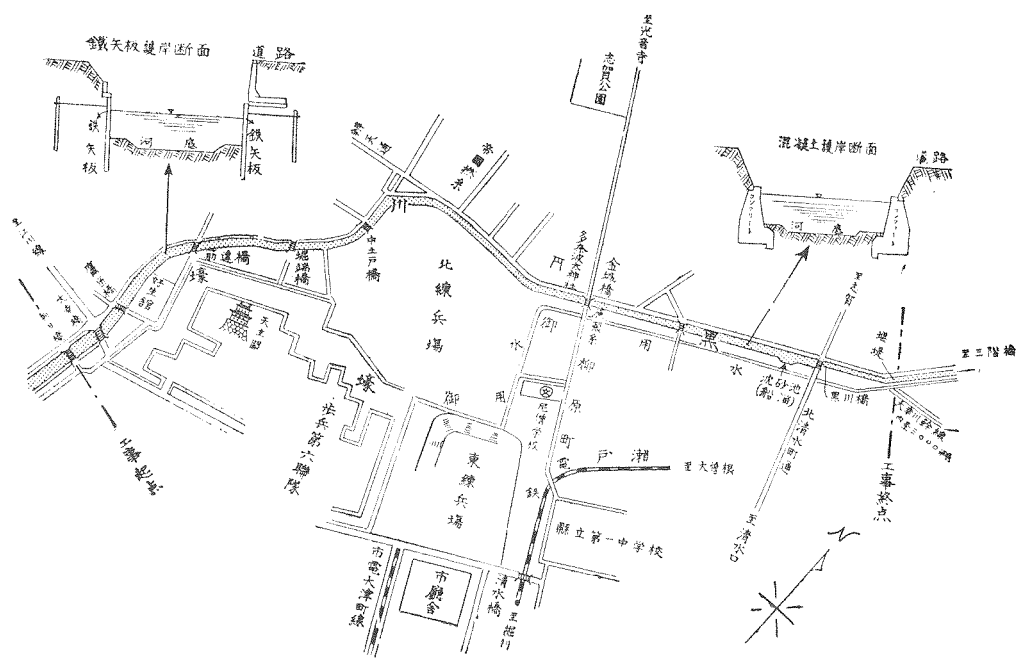
884,973圓000 浚渫護岸築造費

84,649圓000 橋 梁 架 換 費

9,625圓000 雜 工 事 費



(3) 工事竣成せる黒川下流、朝日橋。



(4) 黒川改修工事平面圖